



学校便り  
No. 19

※番号は昨年度から継続

# 夢・挑戦

令和3年2月22日

水俣市立水俣第二中学校

校長 高橋 裕二

## 立志式…「稚心を去る」「人間的成長」

2年生の立志式にあたり、以下の2つのことについて話をしました。

1つ目は、「稚心を去る」という言葉です。この言葉は、幕府の改革を訴えた福井藩の橋本左内という人が残した言葉です。1859年大老となった井伊直弼より安政の大獄が始まり、その結果、橋本左内は26歳の若さで命を落とすことになりました。

橋本左内は、15才にして『啓発録』を執筆し、13・14才になったら大人に頼るような子供っぽさは捨てる、つまり「稚心を去る」を残しました。「稚心」は、様々な解釈ができます。例えば、自分のことばかり考え自己中心的である、勉強や宿題などやらなければならないことはしない、スマホやゲーム、部活動など自分の好きなことだけする、などではないでしょうか。



【2年 立志式】

橋本左内は、夢や希望、目標を達成するため、自分を変える第一歩が「子供っぽい心」を捨て去ること、言い換えると「稚心を去る」ことだと考えました。

2つ目は、人間的成長です。「命とは、一人ひとりに残された時間である」という言葉があります。誰でも時間は、自分のために使います。人間的に成長するためには、一人の時間や孤独になる時間が必要であると言われていいます。一番いいのは読書です。本を読み続けると、人は人間として成長していくようにできています。また、考える力や創造力は、読書をしないと身に付きません。

最近読んだ本に、「人は仕事で磨かれ、人は読書で磨かれ、人は人によって磨かれる」とありました。中学生用にアレンジすると、「人は勉強で磨かれ、人は読書で磨かれ、人は友達や親、先生で磨かれる」でしょうか。一年前に亡くなられたプロ野球楽天の元監督野村克也さんは著書で、「人間的成長なくして、技術の進歩なし」と述べておられます。

大切な時間を読書に使って、人間的に成長してほしいです。人間的成長は、皆さんの幸せな人生にもつながると私は確信しています。

## 熊本県学力・学習状況調査の結果及び分析

12月に実施された熊本県学力・学習状況調査の結果が分かりました。あくまでも学力の一側面ですが、生徒への指導や先生方の授業改善などに生かしていきたいと思います。国語は県平均とほぼ同じ、数学と英語は県平均を大きく上回りました。

【総合定着率(%)】 ※数値は小数第1位を四捨五入

	1年			2年		
	本校	県	県との差	本校	県	県との差
国語	71	71	0	67	68	-1
数学	60	57	+3	62	55	+7
英語	65	61	+4	55	50	+5

【学力の状況】 ○成果 ●課題

○1年は入学時の標準学力検査、2年は昨年度と同調査と比較して、学力が大きく向上した。

●1年国語「読む」、数学「見方・考え方」、2年国語「書く」の観点で、県との差がやや大きい。

●1・2年とも学力の二極化、特に男女差が大きい。

【生徒質問紙】 ○成果 ●課題 ※全国と比較

○1・2年とも平日2時間家庭学習する生徒が約30%おり、全国より約5ポイント高い。

○月2～3冊読書する生徒は、1年約31%、2年は約34%で、全国より平均して約6ポイント高い。

●平日、午後11時ごろ寝る生徒は、1・2年平均すると約44%で、全国より約7ポイント高い。

●2年は、平日テレビやゲームを4時間以上する生徒が約24%おり、全国より約7ポイント高い。

【今後の対策や取組】

◇授業で毎時間、生徒に考えさせる場面を必ず設定

◇生徒が主体的に説明し教え合う授業を計画的に実施

◇学習内容の把握のため、週1回程度の小テスト実施

◇朝自習読書前の学習プリントで基礎・基本の定着

「教育は人なり」とよく言われますが、文部科学省のパフレットには、教育の成否は先生の資質や能力次第とありました。しかし、最初から指導力が高く、信頼される先生はいません。他の職業と同様に経験を重ねながら成長していきます。

私は「人なり」とは、教師自身の人柄や人格はもちろんですが、生徒に深い愛情や思いやりを持ち、勉強や挨拶などを生徒ができるまで粘り強く諦めずに指導する教師と考えています。「生徒にとって最大の教育環境は教師自身である」「教師は生徒の未来に関わっている」という言葉もあります。一年一年、一人一人が「人なり」を高め、生徒や地域から信頼される二中を目指します。